

令和4年度 普及活動成果集

多様な担い手が活躍する都市型農業をめざして！



福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター

令和5年3月

びわ現地講習会
摘蓄目合わせ

トマト現地互評会
ICT 調査

さんさんクラブ北九州研修
経営継承先進事例紹介

早期水稲講習会
穂肥指導

若松小玉スイカ
県 GAP 取得支援

新農業者育成研修
土壌診断

はじめに

北九州地域の農業者並びに関係機関の皆様には、平素より普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

普及指導センターでは、「福岡県農林水産振興基本計画」が目指す方向のもと、市町、JA等の関係機関・団体に構成する地域協議会をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーの方々や部会役員等の農家リーダーの皆様との連携・協力により普及活動を展開しています。

農業を取り巻く情勢は新型コロナウイルス感染症拡大の影響や高止まりする燃油価格及び輸送経費に加え、肥料・飼料価格の高騰により経営費がさらに増大し、農業経営に大きな影響を及ぼしています。

普及指導センターでは、これら諸課題の解決を図るため、感染症対策に留意しながら「多様な担い手が活躍する都市型農業をめざして！」を普及活動のスローガンに掲げ、2つのプロジェクト課題と7つの部門別課題に取り組んできました。

この成果集は、令和4年度までに普及活動で一定の成果の上がった活動事例を取りまとめたもので、併せて地域のトピックスや主な表彰等についても紹介させていただきました。農業者の皆様や関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、今後とも普及指導センターは、現場の声にお応えしながら「担い手づくり」を活動の中心に据え、職員一同、一丸となって地域の課題解決に取り組んでまいりますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和5年3月

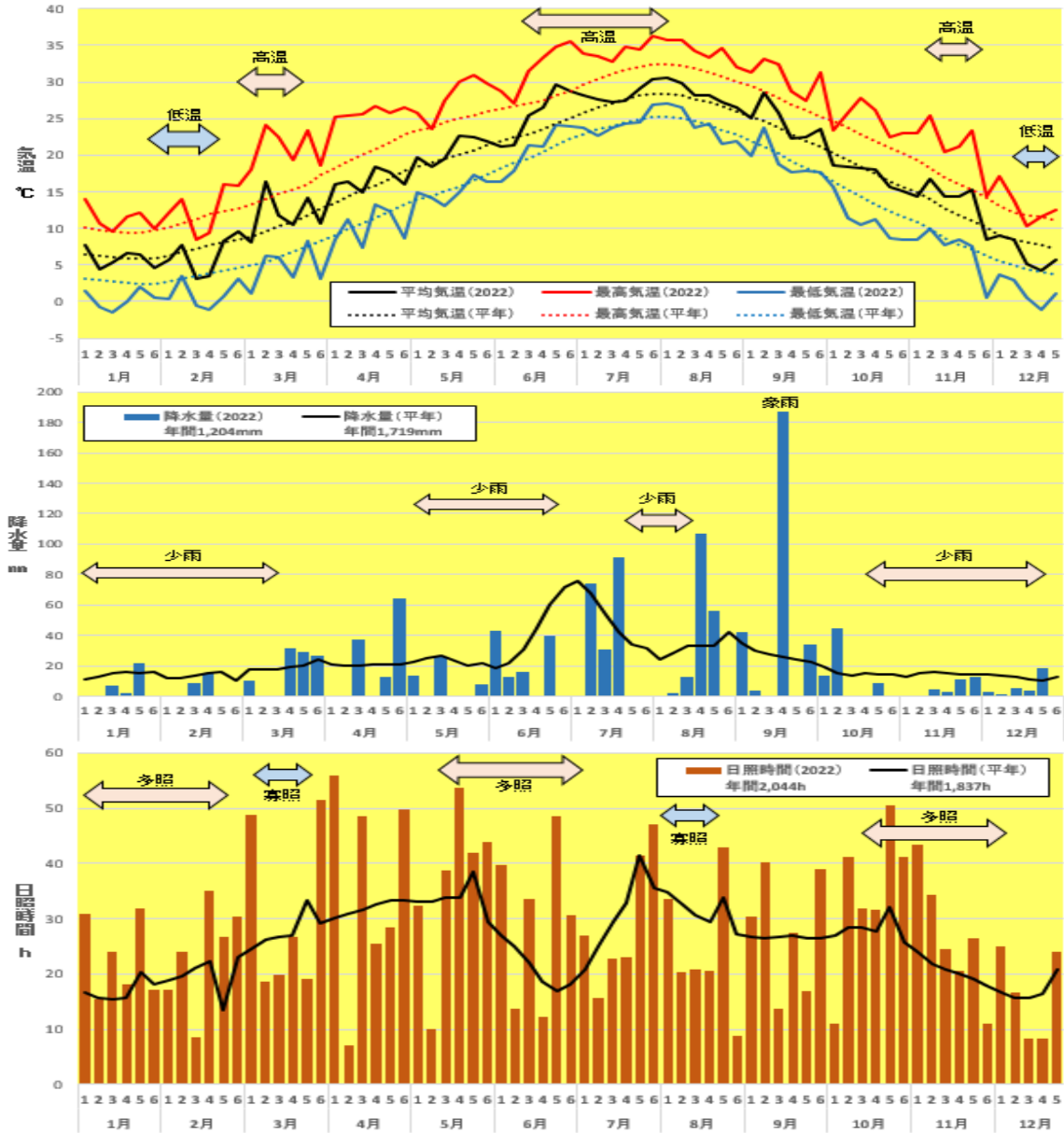
福岡県北九州普及指導センター

センター長 阿波 健一郎

目 次

1	令和4年 気象及び作物の生育概況	1
2	成 果	
	(1) 北九州地域の担い手づくり 新規就農者の確保と経営安定	2
	(2) 重点野菜推進及び担い手育成による門司・小倉地域の活性化	4
	(3) 地域を元気にする多様な担い手の育成	6
	(4) 水田農業における担い手の経営力強化と多様な転作作物の振興	7
	(5) 若松地域における露地野菜農家の生産・経営安定に向けた取り組み	8
	(6) 遠賀・中間地域におけるいちごの生産性向上と安定化	9
	(7) 小倉牛生産農家の経営安定	10
3	主な展示ほの結果の概要	11
4	トピックス	
	・農福連携に向けた取組	13
	・麦作共励会で俵口拓人氏が優秀賞（県知事賞）を受賞	
	・大豆作共進会で植本実氏が優秀賞を受賞	14
	・福岡県農林水産まつりで北九州農業協同組合遠賀中間地区いちご部会が名誉賞、 桃川公治氏が優秀賞を受賞	
	・「小倉大葉しゅんぎく」ブランド強化に向けた取組をスタート	15
	・若松小玉スイカで県GAP認証取得	
	・シクラメンの品質向上と切り花新規品目導入に向けた取組み	16
	・地域特産果樹の生産安定と産地の維持拡大に向けた取組み	
5	現地活動情報・活動体制	
	・令和4年度 現地活動情報一覧	17
	・令和4年度 普及指導センターの活動体制	18

1 令和4年 気象及び作物の生育概況



- 3月の高温で麦や野菜の生育が進み、野菜では収穫が早まりました。
- 5月は降水量が少なく、一部地域で水田の水が不足し田植えの遅れや雑草の発生が観られました。また、6月も乾燥が続いたことから、大豆は適期に播種が行われ、ビワはやや小玉ながら品質は向上しました。
- 7～8月は高温少雨のため、スイカの裂果やイチゴ苗の生育不良、ナスの草勢低下が発生しました。
- 9月は天候に恵まれ、キャベツ、ブロッコリーの定植が順調に進みました。また、イチジクは少雨のため、全体的に収量は向上しました。
- 10～12月は乾燥が続き大豆は粒肥大が劣ったほか裂莢がみられました。また、露地野菜は年明け出荷の作型で初期生育が遅れ小玉傾向となりました。

2 成果

北九州地域の担い手づくり ～新規就農者の確保と経営安定～

1 背景

北九州地域の基幹的農業従事者は2,076人（2020センサス）で、過去5年間で約16%減少し、65歳以上の割合は約75%（県平均66%）と、担い手の減少と高齢化が進展しており、地域農業の担い手の確保・育成が急務となっています。

そのため、新たな担い手の確保・育成・定着をめざし、関係機関と先進農家等との連携による北九州地域全体を対象とする新規就農者支援体制が整備されています。それらを活用した新規就農者の確保と、新規参入者の早期経営安定支援に取り組みました。

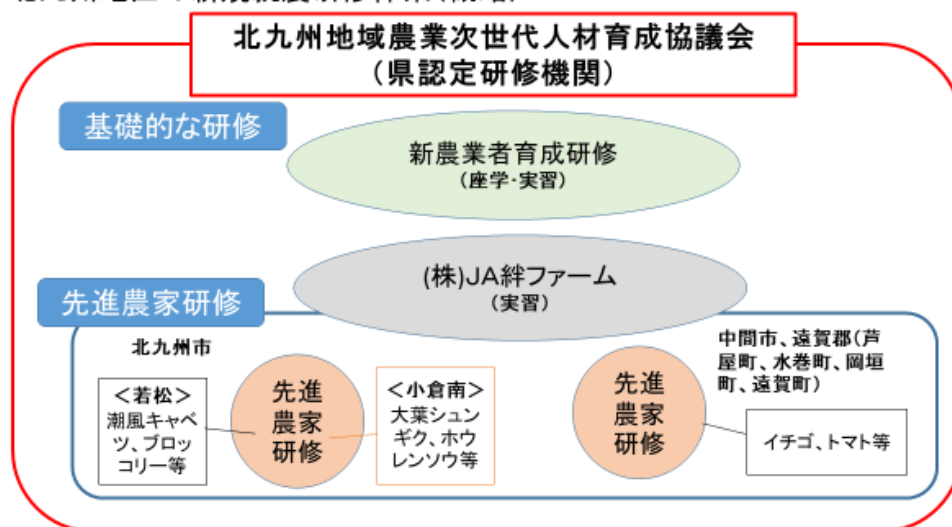
2 取組内容

(1) 新規就農・就業者の確保

普及指導センター、各市町等では、個別に就農相談に対応します。相談を受けるにあたっては、共通の相談カードを利用し、必要に応じて関係機関に情報共有することで、何度も同じことを確認しないで済むようにしています。各市町との担い手育成のための会議で、就農希望者それぞれの事情に応じた就農方法について検討し、就農支援に取り組みました。特に技術の習得が重要であるため、まず研修を受けるよう誘導しました。

また、北九州地域全体をカバーする県認定研修機関である「北九州地域農業次世代人材育成協議会（事務局：北九州市）」の県認定更新と、遠賀・中間地区との連携がスムーズに進むよう働きかけました。

北九州地区の新規就農研修体系（概略）



(2) 新規就農者の経営確立

総合的な経営力・技術向上のため、就農3年未満の方に対して、営農基礎講座を開催しました。内容は、①土づくり、②農薬安全使用、③経営管理、④農作業安全（雪のため中止）⑤先輩農家のほ場視察を実施、延べ43名が参加しました。

また、各市町の担い手育成会議等では、新規就農者の営農状況についての情報共有や個別課題解決に向けた検討をおこない、新規就農者に対して、情報提供や巡回指導等のフォローを行いました。

特に認定新規就農者14名（平成29年から令和3年）を重点指導対象者と位置づけ、個別の栽培技術・経営指導を、関係機関と協力し実施しました。



営農基礎講座第2回
（土づくり、肥料について研修）



営農基礎講座第4回
（税理士を招き、経営計画作成について研修）

3 成果

(1) 新規就農・就業者の確保

令和4年度は、北九州地域で新たに9名（自営就農者5名、雇用就業者4名）が就農・就業しました。本年度の就農相談者のうち数名が、来年度の北九州地域農業次世代人材育成協議会や福岡県農業大学校で研修を受ける予定です。今後も関係機関と連携した支援を継続し、新規就農に結び付くよう進めていきます。

(2) 新規就農者の経営確立

平成29年～令和3年に青年等就農計画の認定を受けて就農した経営体のうち1経営体が、目標年度である就農5年目の売上目標を達成しました。

また、経営体の中には、収量において、部会のトップクラスになる方も出てきました。今後もきめ細やかな支援を継続していきます。

重点野菜推進及び担い手育成による門司・小倉地域の活性化

1 背景

北九州市の小倉地域で栽培されている園芸品目の中で、令和3年度から新たに小倉大葉しゅんぎくとハウレンソウを重点品目に選定し、関係機関で推進を図っています。

園芸では、生産者の高齢化が進み生産量が低迷している一方で、新規就農者が増加していることから、生産性向上や就農定着に向けた支援が課題となっています。また、園芸産地の活性化に向けて、野菜集出荷場の再整備計画が進んでいます。

水稲では、門司・小倉地域の集落は未整備田が多く、担い手が減少していることから不耕作地が増加しています。そのため、各集落における将来の営農ビジョンの策定が急務となっています。

2 取組内容

(1) 園芸の重点品目の推進及び新規就農者の定着

門司・小倉地域営農協議会野菜班会議（構成：北九州市、JA、普及指導センター）を開催し、集出荷場整備計画と併せ、生産者の意向調査をもとに園芸品目の作付けビジョンについて検討するとともに、新規就農者に対し巡回指導を行い、重点品目の作付け誘導を行いました。大葉しゅんぎくは、ブランド強化をねらい、地域プロデュースコンサルタントによる研修会を開催しました。ハウレンソウは、チェーンポット苗の定植方法について事例視察を行い、2か所で実証試験を行いました。



地域プロデュースコンサルタントによる研修会



チェーンポット苗の事例視察

(2) 集落担い手の育成

門司・小倉地域営農協議会農政対策班および営農協議会水稲班（構成：北九州市、JA、普及指導センター）で、主要な担い手が存在する小倉南区の東谷・吉兼集落を対象に、今後の営農ビジョンに関するアンケート調査を実施し、基盤整備も視野に座談会を開催しました。また、門司区猿喰集落の農地利用協議会に参加し、大規模農家への農地集約を誘導しました。



小倉南区東谷地区集落座談会

3 成果

(1) 園芸の重点品目の推進及び新規就農者の定着

園芸品目の作付けビジョンを策定し、重点2目のほかにナス・トマトの生産規模拡大、エダマメの産地育成を図ることとなりました。また、新規就農者について個別巡回を行い、7名中2名の売上げが向上しました。

大葉しゅんぎくは、ブランド強化研修を4回実施したことにより、地元生産者のブランド意識が高まり、ブランド名や調理レシピの検討が行われました。

ハウレンソウは、チェーンポット苗の定植方法が作付け回転数増加に有効であることが実証され、増産に向けてのはずみとなりました。

(2) 集落担い手の育成

アンケート結果や座談会での意見交換により、2集落の農地利用の課題が明らかとなりました。今後は、農地中間管理事業による担い手への農地集約等も検討し、将来の営農ビジョンの策定を進めていくこととしました。

門司区猿喰集落では、農地の大区画化・集約化推進事業を活用して、集落内の水田で畦畔除去が行われ、主要な担い手である個別大規模農家のほ場大区画化が図られました。

地域を元気にする多様な担い手の育成

1 背景

地域農業経営の発展のためには、担い手となる農業経営体が継続的な経営を実現することが重要です。そのため、普及指導センターでは、地域で育成すべき経営モデルを作成し、支援対象を選定しながら、経営改善支援の強化に取り組んでいます。

また、農業経営において重要な役割を果たしている女性農業者の経営参画を推進し、多様な担い手として育成しています。

2 取組内容

(1) 経営体育成支援

本年度、経営体育成支援対象者として、10 経営体を選定しました。うち1 経営体については、農業経営者総合サポート事業を活用して専門家による助言を受けながら、新規事業計画の作成に対する助言を行いました。

また、県が主催するトップランナー育成コースを受講された1 経営体については、講座を通じて、ビジネスプランの策定を支援しました。

(2) 女性農業者の経営参画促進

新たに品目を導入する1名については、新品目導入支援事業を活用し、経営改善計画の作成を支援しました。直売・加工を行う女性農業者1名については、個別課題解決のため、女性農林漁業者起業活動支援事業を活用し、SNS活用のための専門家派遣を実施しました。

また、女性農業者の資質向上や情報交換・仲間づくりのため、女性農村アドバイザーの視察研修会を開催しました。



専門家派遣の様子

3 成果

経営体育成支援対象者については、各経営体のカウンセリングを行い、経営上の個別課題を明らかにして助言を行うことで、経営改善につながりました。

女性農業者については、新たに認定農業者を1名育成しました。また、関係機関と連携し、地域のリーダーとなりうる女性農業者として、新たな女性農村アドバイザーを1名認定しました。



女性農村アドバイザー視察研修会の様子

水田農業における担い手の経営力強化と多様な転作作物の振興

1 背景

水田農業における担い手の減少や高齢化が進む中で、集落営農組織や個別大規模経営体に対する期待が大きくなっています。これら主要な担い手の生産性向上や、持続的な農業を目指し経営改善を図るため、農業経営診断やICT（情報通信技術）による省力・低コスト化など経営力強化に向けた支援を行うと共に、所得の向上を目指して、地域の作物振興計画に基づく転作作物の生産性向上を図りました。

2 取組内容

(1) 経営力強化に向けた支援

集落営農法人や個別大規模経営体について、カウンセリングやコンサルを行い、経営改善目標の達成に向けた支援を行いました。また、研修会等で自動運転農機やドローンなどのスマート農機を紹介し、生産者の理解促進と導入を推進したり、水稻の密播疎植栽培など省力・低コスト化技術の活用を推進しました。



スマート農業研修会

(2) 多様な転作作物の振興

大豆については、排水対策や雑草対策を重点に管理指導を行い、次年産から切り替え予定の「ちくしB5号」について肥料や農薬試験の展示ほを設置しました。

新規需要米として導入された米粉用米品種「ミズホチカラ」については、講習会や現地巡回により管理の徹底を図るとともに、多収品種「みなちから」の現地適応性試験や、稲こうじ病対策として農薬展示ほを設置しました。

3 成果

1経営体で大豆の収量が向上し、1経営体で畦畔除去による農地区画拡大が行われ、経営改善目標を達成しました。また、ICTの活用促進について、3経営体で直進アシスト田植え機やクラウドシステムが導入されました。

大豆は、台風や害虫の影響により登熟不良であったものの生育量が確保され、昨年に比べ平均単収は向上しました。また、「ちくしB5号」の肥料試験により、堆肥入り緩効性肥料の稔実莢数の増加効果を確認しました。

米粉用米は、台風の影響により登熟歩合が低下し、昨年に比べ低収となりました。また、多収品種「みなちから」は、「ミズホチカラ」に比べ収量性がやや高く、有望と考えられました。

若松地域における露地野菜農家の生産・経営安定に向けた取り組み

1 背景

北九州市若松地域では、冬季は露地野菜であるキャベツ・ブロッコリーが主幹品目として作付けされています。しかし、近年、気候の変化により、生産が不安定になるとともに価格が低迷しており、リスク分散のため、補完品目の導入・拡大が現在進められています。

そこで、主幹品目であるキャベツ・ブロッコリーの生産量の安定化及び補完品目の拡大推進による経営安定の支援に取り組みました。

2 取組内容

(1) 主幹品目の生産安定

適期定植による年内出荷量の安定化を図るため、講習会で管理情報の提供や排水対策の推進を行い、健全苗の適期定植を支援しました。また、安定した出荷を図るため、品種試験や肥料展示ほの設置を行い、作型の選定や施肥方法の試験を実施しました。



キャベツ肥料展示ほ調査の様子

(2) 補完品目の拡大・生産安定

北九州市学校給食協会の会議に参画し、出荷品目について協議を行いながら、出荷場の出荷・調製場所が足りない等の課題整理や新たな推進品目についてJAと検討を行いました。また、個別巡回や先進地視察を実施し、補完品目の拡大・推進を図りました。



補完品目（ばれいしょ）の
先進地視察の様子

3 成果

主幹品目のキャベツは適期定植率が 50%→81%、ブロッコリーは 69%→71%となり、昨年より向上しました。年内出荷量もキャベツが 399t→787 t、ブロッコリーが 52t→120 t となり、昨年より向上しました。

また、補完品目については3名が新たに露地でタマネギ、白ネギを導入し、露地の補完品目の作付面積が 4.1ha→4.3ha に増えました。

次年度も個別巡回や講習会による栽培管理指導の実施や品種試験・肥料試験を行い、主幹品目の安定出荷を図ります。また、更なる補完品目の導入・拡大に向け、品目の選定や推進資料の作成を行い、生産者の経営安定に向けた支援を行っていきます。

遠賀・中間地域におけるいちごの生産性向上と安定化

1 背景

遠賀・中間地域は北九州地域のいちごの主な産地であり、近年、地元生産者による積極的な就農希望者の受け入れ支援によって、ほぼ毎年1～2名の新規就農者があります。新規生産者が就農時に作成した営農計画通りに安定した経営ができるように、目標とするいちご生産量を達成するための技術的支援に取り組みました。

また、遠賀・中間地域におけるいちごの品質と生産性のさらなる向上をめざして、地域の技術的課題の調査と改善を進めています。

2 取組内容

(1) 新規就農者の重点的な巡回による技術的課題の克服支援

遠賀・中間地域では、地元の生産者が新規就農者を訪問し、実践的な栽培技術の助言を行っています。普及指導センターも新規就農者を訪問し、あまおうの栽培技術情報を提供するとともに、土壌や水の分析、ハウス内環境測定機器を設置するなど理化学的なデータの収集と聞き取り調査を行って個別の技術的課題を見つけ出し、それらの課題克服を支援しました。



株冷中の苗質をチェックしている様子

(2) 遠賀・中間地域の技術的課題の調査とそれらの課題克服技術の普及

遠賀・中間地域のあまおうのさらなる品質向上と生産性向上を目的として、いちご部会員やその他野菜の生産者の協力により地域の農業用水の水質の分析に取り組み、結果を基にした改善技術の確立と普及に取り組み始めました。

3 成果

新規就農の2経営体が、就農計画の5年目の目標単収をそれぞれ就農1年目・2年目の早期に達成できました。就農計画が達成できなかった生産者は、育苗期の管理や厳寒期の温度管理など技術的課題をはっきりさせて改善に取り組んでいます。

一方、農業用水の分析と調査からは、重炭酸が多く含まれpHが高い生産者が分かりました。重炭酸の中和や、雨水の貯水槽を作成する取り組みにより、生育が良好になる結果が得られています。



貯水槽設置の様子（左側黒いドーム）

小倉牛生産農家の経営安定

1 背景

「小倉牛」は歴史が古く、地元では認知度が高い黒毛和牛のブランド牛肉ですが、肥育素牛価格や飼料価格の高騰等により、生産頭数の減少が課題となっています。

2 取組内容

(1) 小倉牛出荷成績等の向上

小倉牛の要件である、肉質等級4以上、またはBMS5以上を獲得する牛の頭数を増やすため、体測やエコー診断調査など、牛の肥育状況を適宜確認することで、肥育ステージに適応した飼養管理を支援しました。

また、繁殖管理ツールを活用して繁殖成績を高め、小倉牛の地域内一貫生産頭数を増加させることで、肥育素牛の高騰に対応した経営となるよう改善を図りました。

(2) 個別農家の経営支援

小倉牛生産農家を繁殖成績向上、肥育成績向上、堆肥生産・販売効率向上の3点に分けて個別に支援を行い、経営改善を図りました。

3 成果

肥育ステージに適応した飼養管理の支援等により、小倉牛格付割合は令和元年の93%から、令和4年は97%に向上しました。

また、出荷牛のうち地域内産頭数は、7頭から16頭に増加しました。

これらの活動を通じて、小倉牛の出荷頭数維持や、さらなるブランド力の向上に取り組めます。



エコー診断調査



小倉牛の候補牛たち

3 主な展示ほの結果の概要

対象作物	設置場所	課題と結果の概要
水稲	遠賀町	[有機入り緩効性肥料の検討] 「夢つくし」を用いて、有機入り緩効性肥料「有機エムコート 355」の実用性を確認し、慣行資材である対照区の「有機エムコート 256」と同等の施肥効果が認められた。
水稲	岡垣町	[一年生雑草に対する初期除草剤の効果の検討] 「夢つくし」を用いて、1年生雑草に対する「ラオウ1キロ粒剤」の除草効果を確認し、慣行資材である対照区の「アピログロウ MX1キロ粒剤」と同等の効果があると判断した。
水稲	小倉南区	[基肥一発肥料の検討] 「夢つくし」を用いて、緩効性肥料「トリプルエムコート」の実用性を確認し、慣行資材である対照区の「エムコート 2220」と同等の効果があると判断した。
大豆	中間市	[ハスモンヨトウ等に対する防除薬剤の検討] 「ちくし B5号」を用いて、ハスモンヨトウに対する「ヨーバルフロアブル」の防除効果を確認し、慣行資材の「プレバソフフロアブル5」と同等の効果があると判断した。
小麦	遠賀町	[緩効性追肥の検討] 追肥銘柄集約のため、小麦「チクゴイズミ」を用いて緩効性追肥「麦追肥1号」と慣行資材「グッドIB」の比較を行った。同等の収量を確認した。今後年次変動を確認する。
トマト	岡垣町	[環境測定機器の導入によるハウス内環境の把握] 若手生産者や後継者の栽培管理技術向上のため、生育状況調査を行うと共に、環境測定機器を導入し、栽培管理の実態把握・分析を行った。次年度もデータの蓄積・生育状況調査を継続し、栽培管理技術の向上を図る。

対象作物	設置場所	課題と結果の概要
ブロッコリー	若松区	<p>[石灰窒素を用いた初期生育の安定]</p> <p>若松地域では定植後の苗枯れ等の発生により、初期生育が不安定となっている。石灰窒素の施用により、初期生育の安定を図るとともに投入時期を検討した。5月～7月の各月で石灰窒素を施用したところ、苗枯れ等の発生はほぼ見られず、石灰窒素による抑制効果が認められた。</p>
キャベツ ブロッコリー	若松区	<p>[基肥の減肥によるコスト削減]</p> <p>肥料高騰により、施肥量が多い露地野菜は影響が大きいため、慣行の基肥から肥料（若松野菜）1袋を減肥した試験を行った。生育は同等であったことから、慣行より1袋減肥することは可能である。</p>
キャベツ ブロッコリー	若松区	<p>[緩効性肥料を用いた追肥の省力化]</p> <p>緩効性肥料を用い、1回目の追肥の省力化試験を実施した。キャベツの生育は慣行の施肥区と同等であったが、ブロッコリーの生育は慣行の施肥区より若干小ぶりであった。これにより、繁忙期にあたる1回目の追肥の省力化及び施肥作業の遅れによる生育抑制の回避が見込まれるが、生育状況によっては追肥が必要である。</p>
シクラメン (6号鉢)	小倉南区	<p>[植物体の硝酸態窒素濃度に応じた底面給水からの液肥施用による省力化]</p> <p>7～11月に葉柄汁液の硝酸態窒素濃度に応じて底面給水から液肥を施用した結果、労働時間は削減されたが、株は小ぶりに仕上がった。液肥濃度について更に検討が必要である。</p>
パイナップル リリー (切り花)	小倉南区 (農事センター)	<p>[定植時期の違いによる作型拡大の検討]</p> <p>5～8月にかけて1か月おきに定植し、開花率や切り花品質を調査した結果、定植時期としては3月（慣行）から5月初めまでが適すると考えられた。</p>

4 トピックス

農福連携に向けた取組 ～農福連携講座に併せて専門家派遣を実施～

県では、農業と福祉の連携を図るため、農業現場において、障がい特性を踏まえた具体的な農作業の実践手法等をアドバイスする人材を育成することを目的に、農福連携講座が開催されています。管内からは1名が参加しました。

また、管内で既に農福連携による農業経営を実践されている農業者のうち2件に対して、課題解決のための専門家派遣を実施しました。専門家派遣では、障がいのある方に対する作業指導やコミュニケーションの取り方、必要な環境整備について助言をいただきました。また、障がいのある方へ分かりやすく伝えるために必要な作業マニュアルの作成について支援を受けました。



農福連携講座の様子



専門家派遣の様子

麦作共励会で俵口拓人氏が優秀賞（県知事賞）を受賞 ～高収量・高品質麦の生産が評価される～

令和4年度福岡県麦作共励会において、岡垣町の俵口拓人氏が農家の部で優秀賞を受賞されました。

同氏は、米・麦・飼料用米およびスイートコーンを作付けしている認定農業者です。親元就農し、利用権設定や期間借地などで規模拡大を進めています。令和4年産は、大麦7.8ha、小麦3.7haを栽培しました。

麦栽培管理上の特色としては、本暗渠や弾丸暗渠を整備し排水対策を徹底しているほか、草刈で発生した雑草と米ぬかを混用した自家製堆肥を施用し、土づくりに努めています。また、基本技術を励行することにより、令和4年産麦は、大麦では611kg/10a、小麦では609kg/10aとJA平均の約1.5倍にあたる収量を生産しました。また、ふくおかエコ農産物認証に取り組み、地域の食育活動に参加するなど環境にやさしい農業を実践しています。これらのことが評価され、今回の受賞となりました。



大豆作共進会で植本実氏が優秀賞を受賞 ～作況が低い条件下でも高収量の生産が評価される～

令和3年度福岡県大豆作経営改善共進会において、中間市の植本実氏が農家の部で優秀賞を受賞されました。同氏は、米・麦・大豆を主とした経営面積約3.4haの認定農業者で、令和3年産大豆は約1.1ha栽培しました。

大豆栽培管理上の特色としては、周囲溝と弾丸暗渠による排水対策の徹底や適期播種を実施しています。また、アサガオ類などの難防除雑草を随時抜き取るなど、雑草防除もしっかり行っています。令和3年産大豆は、8～9月の多雨による生育量不足などで全体的に不作でしたが、植本氏は基本技術の励行に努めることで、JA平均の約2倍にあたる約160kg/10aの収量を確保しています。経営面では、農機の整備を自ら行い、コスト低減を図っています。これらのことが評価され、今回の受賞となりました。

令和4年度 福岡の麦・大豆づくり生産者研修会



福岡県農林水産まつりで北九州農業協同組合遠賀中間地区 いちご部会が名誉賞、桃川公治氏が優秀賞を受賞 ～新規就農者支援と地域農業の発展に寄与～

第23回福岡県農林水産まつりにおいて、北九州農業協同組合遠賀中間地区いちご部会が名誉賞（園芸部門）、桃川公治氏が優秀賞（農産部門）を受賞されました。

遠賀中間地区いちご部会は、新規就農希望者に対して空きハウスの情報提供や斡旋を部会で取り組んでおり、初期投資が高く新規参入が難しい就農希望者への大きな援助となっていることや、ハダニ殺虫システムの積極的な導入による化学農薬の使用を抑えた安全・安心な生産物の提供が評価され、今回の受賞となりました。

桃川氏は、米・麦・大豆・野菜の生産者であり、収量がいずれの品目も地域で上位の優良経営をされています。指導農業者時代には新規就農者の確保に意欲的に取り組んで担い手を育成してきたことや、近年法人化を実践し、代表取締役を若手従業員に譲る第三者継承を行うなど、モデル的な経営を行ってきたことが評価され、今回の受賞となりました。

いずれも未来の地域振興を見据えた若い世代への支援の取り組みで、今後の若い世代の活躍が期待されます。



「小倉大葉しゅんぎく」ブランド強化に向けた取組をスタート ～みんなでアピール！「小倉大葉しゅんぎく」の魅力～

北九州市小倉南区で栽培されている「小倉大葉しゅんぎく」の、さらなるブランド強化に向けた取組が始まりました。

「小倉大葉しゅんぎく」は北九州地域の伝統野菜ですが、高齢化に伴う生産量の減少や、北九州地域外での消費者の認知度の低さが課題となっています。

そこで、令和3年度に関係機関と生産者が連携してブランド強化に取り組み始めました。今年度は地域プロデュースコンサルタントと共に、振興方向の検討やPRポイントの共有などを行いました。

11月に行われたブランド強化検討会では、後継者や家族を含めた出荷組合員が集まり、「小倉大葉しゅんぎく」の歴史の共有や全国の春菊産地との比較を行い、消費者にオススメのおいしい「小倉大葉しゅんぎく」の食べ方を研究しました。

今後も生産者及び関係機関と共に、「小倉大葉しゅんぎく」のブランド強化による認知度向上と生産拡大に取り組んでいきます。



ブランド強化検討会の様子

若松小玉スイカで県GAP認証取得 ～若松クイーンの販売促進に向けて～

J A北九若松そさい部会の小玉スイカ班が県GAP認証を取得しました。

GAPとはGood Agricultural Practices（農業生産工程管理）の略で、農業にまつわる食品安全、環境保全、労働安全、経営管理を評価する取組みです。県の定めたこれらの評価基準を満たすことで、県GAP認証を取得することが出来ます。若松そさい部会の小玉スイカ班では、毒劇物や剤型ごとの適切な農薬保管、農薬用の掃除用具の設置、鳥獣害対策の防鳥糸の設置など、生産工程管理の見直しと改善を重ね、県GAP認証の取得に至りました。

今回県GAP認証を取得した小玉スイカは「若松クイーン」としてブランド化されています。ラベルやパンフレットの作成、シンポジウムの開催など積極的なPRによって年々出荷量が増えており、令和4年度は約150tを出荷しました。

今後も生産者及び関係機関と共に、県GAP認証に基づいた安全、安心な小玉スイカの生産支援に取り組んでいきます。



作業場の安全性を審査している様子

シクラメンの品質向上と切り花新規品目導入に向けた取組み ～花き生産の活性化に向けて～

北九州地域では、鉢物、切り花、苗物が生産されていますが、高齢化等で生産者数、生産量が減少しています。そのため、JA北九や北九州市総合農事センターと協力し、花き生産の活性化に向けて、品質向上や新規品目導入の検討に取り組んでいます。

鉢物では、主要品目であるシクラメンの品質向上に向けて、生育中は毎月、植物体の硝酸態窒素濃度を測定し、適正施肥管理を支援しています。また、測定した硝酸態窒素濃度を基に、液肥を底面給水により施用する試験を行い、施肥作業の省力化を検証しました。

切り花では、北九州市総合農事センターと連携し、パイナップルリリーの導入と作型拡大を目指して、定植時期試験を行い、春先から5月までの定植が適するという結果が得られました。

今後も生産者及び関係機関と共に、花き生産の活性化に取り組んでいきます。



パイナップルリリー試験ほ
(開花時)

地域特産果樹の生産安定と産地の維持拡大に向けた取組み ～新品種の導入と担い手確保に向けて～

北九州地域では、びわ、みかん、いちじく等の果樹が生産されていますが、近年、高齢化や経営不振等により、生産者数、生産量が減少しています。そのため、JAや部会組織と連携し、果樹産地の維持を図るため、単価の期待できる新品種の導入や担い手確保対策に取り組んでいます。

びわでは、高品質な新品種「なつたより」や「湯川」の導入に向けて、果実品質調査や部会講習会での紹介など、導入の推進を図りました。みかんでは、「早味かん」や「北原早生」を導入検討者に試食してもらうとともに、品種特性等の説明を行い導入の推進を図りました。

この結果、びわ、みかん共に新品種の作付けが進みました。

担い手確保対策としては、いちじく部会で将来の栽培意向を確認するアンケート調査を実施しました。今後、アンケート結果について部会内での共有を図り、遊休化しそうな園地の斡旋等について検討を行う予定です。

今後も生産者及び関係機関と共に、果樹産地の維持拡大に向けて取り組んでいきます。



新品種「なつたより」

5 現地活動情報・活動体制

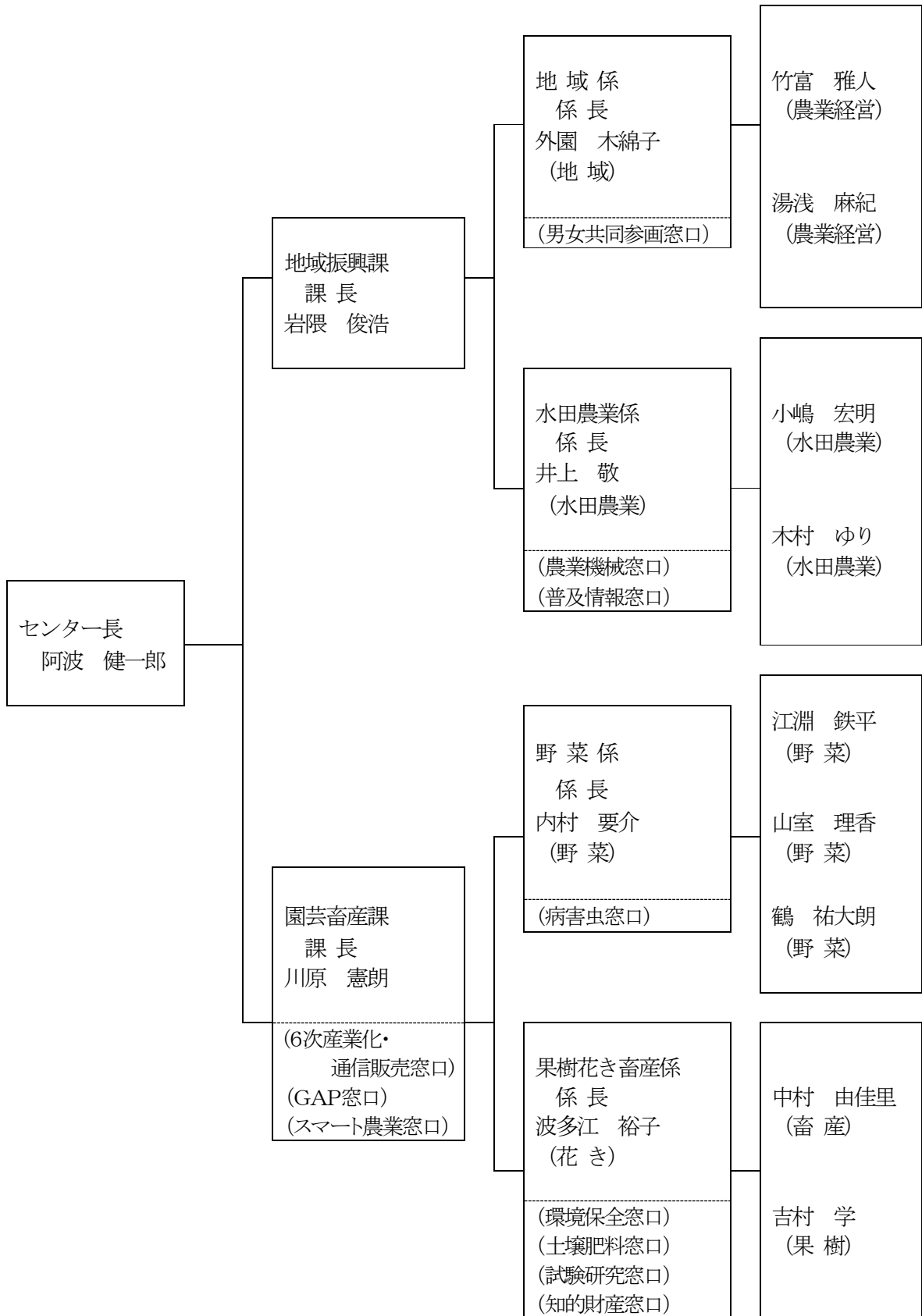
令和4年度 現地活動情報一覧

No.	表題 (タイトル)	係名	日付
1	門司・小倉地域で水稲育苗講習会を実施 田植前に注意事項を確認	水田農業係	4月
2	大きくて元気な野菜「水巻町のでかにんにく」 試し掘りは収穫適期でした	野菜係	5月
3	令和4年産いちご栽培スタート！いちご育苗講習会 重油や肥料高騰に負けない栽培技術を議論	野菜係	5月
4	夏野菜！キュウリ出荷開始に向けて JA北九遠賀キュウリ部会 現地互評会を開催	野菜係	6月
5	早熟トマトの出荷開始 小倉トマト目合わせ会を開催	野菜係	6月
6	「高倉びわ」の出荷が本格化 露地びわ出荷目合わせ会を開催	果樹花き畜産係	6月
7	多収で高品質な米生産に向けて 早期水稲の栽培講習会開催	水田農業係	7月
8	いちじくの出荷が本格化 3品種のいちじくが出荷中	果樹花き畜産係	9月
9	若松区にフェロモントラップを設置 害虫の発生時期を掴むために	野菜係	10月
10	若松潮風®キャベツの定植順調 海水散布による天然のミネラル補給	野菜係	10月
11	クラウドシステムを活用して作業の効率アップ 営農支援ソフト利用説明会開催	水田農業係	10月
12	大豆収穫前講習会を実施 コンバインを上手に使い収穫ロスを低減	水田農業係	11月
13	地産地消の花苗が秋の公園を彩っています JA北九産の花苗がグリーンパークで開花中	果樹花き畜産係	11月
14	北九州市立食肉センターにて、食肉祭を初開催！ 安全・安心な畜産物の生産を目指して	果樹花き畜産係	11月
15	店頭で多種多様なシクラメンが見られる季節です JA北九花き部会鉢物班のシクラメン出荷がピーク	果樹花き畜産係	12月
16	女性農村アドバイザー・OB視察研修会を実施 中間市のほ場・直売所を視察	地域係	12月
17	水田農業担い手がスマート農業を学ぶ スマート農業に係る研修会を開催	水田農業係	2月
18	農福連携強化に向けた取組 専門家派遣で課題解決を支援	地域係	2月

下記の福岡県ホームページでご覧いただけます。

URL <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/>

令和4年度 普及指導センターの活動体制



福岡県行政資料			
分類番号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703305	04	0001

福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター
〒807-0831
福岡県北九州市八幡西区則松3丁目7-1(八幡総合庁舎 2階)
TEL 093-601-8855
FAX 093-601-8869
E-mail: kitakyu-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/>